

令和5年度病害虫発生予察予報第6号（令和5年9月）

令和5年9月5日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稻 （普通期稲）	いもち病（穂いもち） 紋枯病 ごま葉枯病 稲こうじ病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	<u>多(東、中西、西)、やや多(中央)</u> <u>多(中央、中西、西)</u> 、やや少(東) <u>多(中央、西)、やや多(中西)</u> 、やや少(東) <u>多(東、中央、中西)</u> 、平年並(西) <u>多(東、西)、やや多(中西)</u> 、やや少(中央) <u>多(東)、やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(西) <u>やや多(東)</u> 、少(中央、中西、西) 平年並(東)、やや少(中央、中西、西) <u>多(東)、やや多(中央)</u> 、やや少(西)、少(中西) <u>多(東、中央、西)、やや多(中西)</u>
カンキツ類 （温州ミカン）	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> やや少(中央) 少(中央)
カンキツ類 （中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(西)</u> 、少(東、中央、中西) <u>多(中央)、やや多(中西)</u> 、やや少(東、西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東)、少(中央、西) <u>多(東)、やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(西) 少(県下全域)
促成ナス	フザリウム立枯病 ハスモンヨトウ	<u>多(東、中央)</u> 、平年並(西) <u>多(東、中央、西)</u>

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方気象台 8 月 31 日発表）

9 月 2 日から 10 月 1 日までの天候見通し

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

暖かい空気が流れ込みやすいため、気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。台風 12 号や湿った空気の影響を受けやすいため、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率が 80% です。

週別の気温では、1 週目、2 週目は高い確率が 80% です。3 ～ 4 週目は高い確率が 60% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	10	10	80	
		降水量	20		40	40
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率 (%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		10	10	80	
3 ～ 4 週目		10	30	60	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：9 月 2 日(土)～10 月 1 日(日)

1 週目：9 月 2 日(土)～9 月 8 日(金)

2 週目：9 月 9 日(土)～9 月 15 日(金)

3 ～ 4 週目：9 月 16 日(土)～9 月 29 日(金)

II 病虫害発生予想

1 水稻(普通期稲)の病虫害

1) いもち病(穂いもち)

予 想 発生量：多(東部、中西部、西部)、やや多(中央部)

根 拠

(1) 8 月の調査では、穂いもちの発生は見られなかったが、葉いもちの発生は県下全域で見られ、発生面積は県東部と西部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部で少なかった。発生程度は、西部で平年よりもやや高く、その他の地域は平年並以下であった。

(2) 葉いもちの 8 月の発生面積が平年よりも少なかった県中央部においても、7 月には平年よりも多かったことから、伝染源量が多いと予想される。また、9 月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、感染に好適な条件が出現した場合に

は急激に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) QoI剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて1回とする。

2) 紋枯病

予 想 発生量：多(中央部、中西部、西部)、やや少(東部)

根 拠

(1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部、西部で平年よりも多く、東部で少なかった。発生程度は、いずれの地域とも平年並以下であった。

(2) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。9月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並か多いと予想されていることから、発生が増加し、発病株は上位葉鞘に進展すると考えられる。

対 策

(1) 止葉まで発病すると稔実が悪くなり、減収するので、発生が予想される場合には薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)、やや少(東部)

根 拠

(1) 8月の調査では、県中央部、中西部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部と西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度はいずれの地域とも平年並以下であった。

(2) 登熟が進むと肥切れとなるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では薬剤防除を行う。

4) 稻こうじ病

予 想 発生量：多(東部、中央部、中西部)、平年並(西部)

根 拠

(1) 8月の調査では、県中央部および中西部で発生が見られ、両地域とも発生面積は平年よりも多かった。発生程度は両地域とも平年並以下であった。発生の見られなかった東部、西部では、例年9月以降に発生が見られる。

(2) 前年度は県東部、中央部、中西部で発生が見られ、東部、中西部では発生面積が平年よりも多かったことから、これらの地域では伝染源量が多いと考えられる。従って、現在発生の見られないほ場でも、今後発生が増加すると考えられる。

(3) 感染時期である穂孕期の気温が高く、降雨が見られていることから、常発地を中心に多発すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると玄米の品質低下につながるなので、出穂前に薬剤防除を実施する。

5) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多(東部、西部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、西部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪くなることがあるので、薬剤防除を行う。

6) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)、少(西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部で平年よりも少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

7) セジロウンカ

予 想 発生量：やや多(東部)、少(中央部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、西部でやや少なく、中央部、中西部で少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並以下であった。
- (2) セジロウンカはほ場への定着性が低く、出穂期以降はほ場から離脱するため、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度の場合には防除する。

8) トビイロウンカ

予 想 発生量：平年並(東部)、やや少(中央部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりもやや少なく、その他の地域では平年よりも少なかった。発生程度は、いずれの地域とも平年並以下であった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫の密度が高まると坪枯れなどの被害を引き起こすので、今後の発生に注意する。
- (2) 株元に寄生するので、薬剤が株元に十分かかるように防除する。

9) コブノメイガ

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中央部)、やや少(西部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、中央部、西部で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部で平年並、西部で少なかった。発生程度は東部で平年よりもやや高く、その他の地位域では平年並以下であった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

10) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多(東部、中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中央部、西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度は中央部、中西部で平年よりもやや高く、東部、西部でやや低かった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、出穂10日後頃、およびその5～7日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

2 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりも高かった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並か多いと予想されているものの、時期的にも果実の感染リスクが低いことから大幅な発生の増加はないと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 9月の降水量は平年並か多いと予想されており、発生は増加すると予想される。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3)ミカンハダニ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 本虫の増殖に好適な時期を迎えるため、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4)カメムシ類

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、園地での発生は確認されていない。
- (2) フェロモントラップによる調査では、誘殺数が県下全域で平年よりも著しく少ない。

対 策

- (1) カメムシ類が山林で餌としているスギやヒノキの毬果が、吸汁や台風等の強風により落下した後に、餌を求めて果樹園に飛来してくることが予想される。園内をよく観察し、飛来を確認したら薬剤防除を実施する。

3 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1)そうか病

予 想 発生量：多(西部)、少(東部、中央部、中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 9月の降水量は平年並か多いと予想されているものの、時期的にも果実の感染リスクが低いことから大幅な発生の増加はないと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2)黒点病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(中西部)、やや少(東部、西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部で平年並、東部、西部で少なかった。発生程度は県中央部で高く、その

他の地域は平年並以下であった。

(2) 9月の降水量は平年並か多いと予想されており、発生は増加すると予想される。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3)かいよう病

予 想 発生量：やや多(中西部)、やや少(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、東部で平年よりも少なかった。発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 9月の降水量は平年並か多いと予想されていることから、発生はやや増加すると予想される。台風の襲来があった場合には、更に増加し、発生が見られなかった地域でも発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4)ミカンハダニ

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中西部)、平年並(中央部)、少(西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりもやや多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発生程度はいずれの地域も平年より低かった。
- (2) 本虫の増殖に好適な時期を迎えるため、発生は増加し、発生が見られなかった地域においても見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5)カメムシ類

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 8月の調査では、園地での発生は確認されていない。
- (2) フェロモントラップによる調査では、誘殺数が県下全域で平年よりも著しく少ない。

対 策

- (1) カメムシ類が山林で餌としているスギやヒノキの毬果が、吸汁や台風等の強風により落下した後に、餌を求めて果樹園に飛来してくることが予想される。園内をよく観察し、飛来を確認したら薬剤防除を実施する。

4 促成ナスの病害虫

1)フザリウム立枯病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、平年並(西部)

根 拠

(1) 前年に本病が発生したほ場では伝染源量が多いと考えられる。

対 策

(1) 発病が見られ始めてから防除を実施しても効果は全く期待できないので、主要な感染時期と考えられる8～10月に定期的な防除を実施する。また、芽かき、収穫、整枝などによってできた傷口から発病するので、これらの作業が始まる時期に防除を開始する。

(2) 前作の罹病残さは伝染源になるので、ハウス内外に放置せず、適切に処分する。

2)ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(東部、中央部、西部)

根 拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺数は、県中央部で平年並か平年よりも多く、東部、西部でやや多かった。

(2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。

(2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報

②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報

③病害虫発生予察技術資料

④新しく問題となっている病害虫 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

①農薬の検索

②農薬データの一覧

③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病害虫防除指針 etc.)